

議 事 の 経 過

<p>司会 (堀部次長)</p> <p>坂田委員</p> <p>司会 (堀部次長)</p>	<p>1 開 会</p> <p>皆様、こんにちは。定刻になりましたので、令和6年度第2回上尾市地域創生総合戦略審議会を開会させていただきます。本日の司会を務めさせていただきます行政経営部次長の堀部と申します。よろしくお願いいたします。それでは初めにオンライン会議でご協力いただくため、簡単なルールを2つお話したいと思います。まず1点目でございますが、発言する方以外は雑音が入らないようにするためにマイク機能をオフにいただければと思います。2点目でございますが、ご発言又はご意見いただく時は、挙手、もしくはリアクションボタンの「挙手」を押し、マイクをオンにいただき、氏名を名乗り、案内されてから発言するようにお願いします。ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、会議に入らせていただきます。本日の審議会では12名の委員さんに出席いただいております。</p> <p>本審議会は、条例第6条2項の規定に基づき、委員の過半数の出席がありましたので、有効に成立していることをご報告いたします。</p> <p>まず、今回初めてご出席いただく委員をご紹介させていただきます。埼玉県県央地域振興センター所長の坂田直人様でございます。</p> <p>(あいさつ)</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>司会 (堀部次長)</p> <p>事務局</p> <p>司会 (堀部次長)</p>	<p>2 会議の公開について</p> <p>次に、「会議の公開について」事務局から説明いたします。</p> <p>本審議会につきましては、「審議会等の会議の公開に関する指針」に従いまして、同指針策定後の初めての審議会において「原則公開」ということで採択されております。</p> <p>なお、本日傍聴者はおりませんので、このまま続けさせていただきます。</p> <p>それでは、条例第5条第2項の規定によりまして、今後の進行は、佐藤会長にお願いします。</p>
<p>佐藤会長</p> <p>事務局</p>	<p>3 議題</p> <p>はい。皆さんこんにちは。お手元の次第にそって議事を進めてまいります。まず、議題の1つ目です。定住アンケートについてまずは事務局からご説明をお願いしてよろしいですか。</p> <p>はい。事務局よりご説明させていただきます。</p> <p>本日は、定住アンケートについてお諮りするものでございます。</p> <p>資料1をご覧ください。まず、アンケートの実施方法についてご説明いたします。今回のアンケートは総合戦略に基づいて、定住促進施策の効果検証や今後の方向性等を決める検討材料として実施するものです。総合戦略の計画期間の2年目と4年目に実施しており、直近では令和4年度にアンケートを実施しました。参考資料1として、令和4年度に実施した定住</p>

アンケートの報告書を添付しております。後で参考としてご覧ください。それでは資料1をご覧ください。今回のアンケートの実施方法案となります。アンケートの対象者は令和6年3月から8月までの6か月間において、上尾市に転入もしくは上尾市から転出した方です。サンプル数で申し上げますと転入者の世帯主を1,500人、転出者の世帯主を2,000人抽出する予定です。対象者にアンケートの案内通知を封書で送付します。回答方法については、前は郵送またはWeb回答としておりましたが、今回はWeb回答のみで実施する予定です。今回、回答方法をWeb回答のみとするため、前回の令和4年度に実施したときよりもサンプル数を増やしております。参考資料2として、Web回答フォーム案をお配りしておりますので、後でご覧いただければと思います。アンケートの発送時期は12月中旬、回答締め切りは1月31日とする予定です。

続いて、資料2-1 上尾市に転入した方へのアンケート案をご覧ください。こちらは転入者向けに作成したものでございます。上から順にご説明いたします。まず、回答者の年齢について確認します。次の問2で世帯の状況を確認します。こちらは前回のアンケートでは、「単身」か「家族」かの2択で聞いていたものを今回から「単身」「夫婦・パートナーのみ」「親と子など」「親と子と孫など」「その他」に修正しております。「親と子など」「親と子と孫など」を選択した方には続く問3で子どもの年齢層を確認します。続く問4で「夫婦・パートナーのみ」「親と子など」「親と子と孫など」を選択した方には、共働きか否かについて確認します。問5では、以前住んでいた地域を尋ね、続く問6では、現在上尾市内のどの地区に住んでいるかを尋ねます。問7では、戸建てか集合住宅か持ち家か賃貸かといった現在の居住形態について確認します。ここでその他を選択した方には、続く問8で具体的な内容を記入してもらいます。問9では、転入することになったきっかけについて、選択肢から回答していただきます。複数回答可としております。「その他」を選択した方には、続く問10で具体的な内容を記入してもらいます。問11では、上尾市を選んだ理由について、選択肢から回答していただきます。こちらも複数回答可としております。ここで、「その他」を選択した方には続く問12で具体的な内容を記入してもらいます。問13では上尾市以外に転入先の候補があったかどうかについて確認します。他の候補地があったと回答した方には、それがどこだったかを続く問14で記入してもらいます。これは上尾市を選んでいただいた方が、どのような他自治体と比較したのかを知るためでございます。問15では、総合戦略に関連する上尾市の取組で知っているものはあるかどうかについて確認します。これは前回まで、上尾市の満足度についての問いがあったものを上尾市の取組の認知度を回答してもらう設問に変更したものです。満足度については、市民意識調査でも同様の問いがあり、過去の定住アンケートの回答と同じ傾向であったことから、上尾市地域創生総合戦略に関連した取組の認知度を確認する問いとしました。問16では、転入するまでの情報収集に用いたインターネットツールについて確認します。各種WebサイトやX、Instagramなどインターネットを利用した情報収集の選択肢を設けております。複数回答可としております。「その他」を選択した方には、続く問17で具体的な内容を記入していただきます。最後に問18で上尾市に対する意見を書く自由記入欄を設けております。

次に資料2-2 上尾市から転出された方へのアンケート案をご覧ください。上から順にご説明いたします。問1から問8までは、先にご説明した転入者向けアンケートと同じく、年齢、世帯状況、転居の前後の居住地、

	<p>住居の形態などについて確認するものです。問 9 では、転出することになったきっかけについて、選択肢から回答していただきます。</p> <p>説明を続けさせていただきます。問 9 までご説明をいたしましたので、問 11 からご説明をいたします。問 11 では、上尾市に住んだ年数について回答していただきます。問 12 では、転出先の市町村を選んだ理由について、選択肢から回答していただきます。ここで、「転出先の自治体の取組に魅力を感じた」を選択した方と、「その他」を選択した方には、続く問 13、問 14 でそれぞれ具体的な内容を記入していただきます。問 15 では、転入と同じく総合戦略に関連する取組の認知度について回答していただきます。取組については、ほとんど転入と同じ設問にしておりますが、「保育所オムツのサブスクリプションサービスの開始」と「保育所での英語体験事業の開始」と「健康ポイントアプリの実施」については、令和 6 年度からの事業のため、以前から実施している「公立保育所に午睡用ベッドを導入」と「あげおお土産観光センター」を選択肢としております。問 16 では、また上尾市に住みたいかどうかについて選択肢で尋ね、続く問 17 でなぜそう思ったのかの理由を記入していただきます。最後の問 18 で上尾市に対する意見を書く自由記入欄を設けております。最後にアンケートの今後の予定についてお伝えいたします。本日の審議会でアンケートの内容についてお諮りし、決定した後、アンケートの案内文を 12 月中旬に対象者に送付する予定です。回答期間終了後事務局にて集計し、令和 7 年度にアンケートのとりまとめ結果をご報告する予定でございます。説明は以上となります。よろしく願いいたします。</p>
佐藤会長	<p>はい。ありがとうございました。本日の議題のメインがこの定住アンケートについてのご審議となります。ただいまの事務局からのご説明に対しまして、委員の皆さんからご質問ご意見ございましたら、手を挙げていただくか挙手ボタンを押していただくという形でご発言いただけますでしょうか。いかがでしょうか。樋口委員が手を挙げていらっしゃいますね。お願いいたします。</p>
樋口委員	<p>説明ありがとうございました。ちょっと何点かお伺いしたいのですが、まず、聞き漏らしていたら申し訳ないですが、回収方法を Web 回収に限定した理由はこういったところでしょうか。</p>
佐藤会長	<p>はい。それではただいま樋口委員からご質問いただきましたので、ご質問に対してのリプライを事務局からいただけますか。</p>
事務局	<p>今回 Web のみの回答とした理由でございますけれども、定住アンケートということで特に 20 代から 40 代の子育て世代の方に多く回答をいただきたいということで、なるべくその人たちが取り組みやすい方法として郵送より Web 回答の方が取り組みやすいのではということで Web 回答としています。もう 1 つペーパーレスと業務の省力化も相まってこれからの時代としては Web 回答でも十分対応できるのではという理由でございます。</p>
佐藤会長	<p>樋口委員よろしいですか。</p>
樋口委員	<p>時代背景等に合わせてというところだと思いますが、去年の資料を見る</p>

	と 30 代 40 代でもまだまだ郵送回答が多い等あるというのものもあるし、単純に転入者より転出者の人数が多いのは傾向として転出者の方の回答率が悪いからと認識していますが、その認識が合っているのかというのが 1 点と、あとその回答率に対しての目標設定はしているのかというのを聞いてもいいですか。
佐藤会長	はい。2 つのご質問だと思いますが、事務局いかがでしょうか。
事務局	転出者の方が多いのは令和 4 年度の回答率が転出者の方が少なかったため多めにしております。回答率に対しての目標は、前回の回答率と同じくらいの回答率は目指したいと思っています。実数で言うと 100 以上の回答は欲しいと思っています。
佐藤会長	樋口委員よろしいでしょうか。
樋口委員	そうすると、例えば 100 以上の実数と昨年同様の回答率がということですが、前回も回答が集まらなくて追加発送をされていると思うが、今回も実数に届かなかった場合はそういったことをする予定があるかどうか。いかがでしょうか。
佐藤会長	はい。事務局いかがですか。
事務局	特に転出の 2,000 人の方は、ほぼ実数に近い形となるので、今のところ追加の予定はございません。
樋口委員	ありがとうございます。意見になるかもしれないですが、他市でもこういったアンケートをやっている数字がどうかというのは把握していませんが、回答率の数字を上げるような何かされてもいいと思います。意見です。以上です。
佐藤会長	回答率が大きく下がってしまうとデータの信頼性に影響を及ぼすため、なるべく回答率が上がるような方策を今一度検討していただけますか。 はい。他の委員いかがでしょうか。はい。ごめんなさい、どちらが早かったかわからなくなってしまいましたので、小池委員、島津委員の順番でお願いします。では小池委員どうぞ。
小池委員	転入アンケートの方で、各設問で色々意図があるとは思いますが、今回のアンケートで元々上尾に住んでいて戻ってきた方を判断できる意図がある設問があるかをまずお聞かせいただけますか。
佐藤会長	この点いかがでしょうか。
事務局	そのような意図の設問はないです。
小池委員	問 11 のところに地縁血縁がありますが、基本的に上尾は、元々住んでいた方が戻ってこられるケースが割と私の印象ではあると思っています、データとして実はなかったりすると思うのですよね。問 11 の地縁血縁で何かで

	<p>きないかと思っていて、実際この質問をすると実際親族が住んでいるとはいえ、元々上尾に住んでいたかはわからないじゃないですか。定住促進アンケートするときには実は関係人口として、元々住んでいるかたのほうが定住促進しやすいというデータがもし取れるのであれば、そこに対して、広報的なアプローチをかけることもできると思うので、そのようなアプローチの仕方が、そもそもできるのか、担当課の考えも含めて、お伺いできると幸いです。</p>
佐藤会長	<p>この点についてどうでしょうか、行政経営課いかがですか。</p>
事務局	<p>確かに今の設問の中では、再転入された方がわかる部分はありません。小池委員のおっしゃるような地縁の中で例えばかつて住んでいたことがあるとかそういった項目が載せられるどうかこれから検討したいと思います。</p>
小池委員	<p>ぜひご検討ください。 あと、これもお考えをお伺いしたいのですが、時代の流れに合わせて、転入される方の職業というのも変わっている可能性があると思っています。例えばコロナになってから、割と個人事業主で、事務所と一緒に自宅のスペースを使うような方が結構増えている気もしていて、特に上尾の場合は、やはり都内と比べると家賃が安いので、広いスペースで仕事も一緒にやってしまう方も一定数いるのかなと思うのですが、それも意外とデータがなかったりするもので、もし入れこめるようであれば職業を聞くとかも含めて、ご検討いただいてもよろしいのかなと思っていますので、よろしくお願いします。</p>
佐藤会長	<p>ご意見ありがとうございます。ぜひ検討していただければと思います。 島津委員、よろしいでしょうか。</p>
島津委員	<p>やはり、さっき樋口委員と小池委員が言われているようにどうしてもアンケートの回答率ってなかなか低いということでこの辺をしっかりともう少し回答率を上げるための努力、これから先どうしていくのかというのを考えていただきたいのと、アンケートを見ると転出されるほうがアンケートって、なかなか難しいと思われれます。転入のほうが比較的アンケートに答えやすいのかなと思うので、この転出された方のアンケート自体の回答率を上げるためにどのようにしていくのかお考えがあれば教えていただければと思います。</p>
佐藤会長	<p>事務局いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>回答率を上げるための努力としては、例えば何かのインセンティブとかをつけるということも検討したのですが、今回は、アンケートの文面のみでご審議いただいておりますが、この同封する依頼文の中にあなたの意見をなるべく反映させたいのというようなことでなるべく協力いただけるような見栄えにしたいと思っています。</p>
島津委員	<p>わかりました。ありがとうございます。以上です。</p>

佐藤会長	<p>回答率を上げるというのは、そう簡単なことではなくて、先ほど言われた経済的なインセンティブなんかよくあるのは、アンケートに回答した人に対してグッズを差し上げるとか、それには予算が伴うわけですし、あと督促状を郵送するかなにかで気づいてもらうとかですね、それもそれほど大きな効果が上がるものではありませんけれども、昨今、なかなかこういったアンケートに協力してくれないというようなこともある中で、そういったものもなかなか難しいわけですが、転出2,000人というのは先ほどおっしゃったように実数に近いという事で、そういう全体に網をかけていく趣旨だと思うのです。かける実際の回答率で実回答者数という実数が上がってくるということになるわけですね。今回、郵送で依頼をして、回答はWeb回収というスタイルにするとそのあたりは前回とは異なるのですけれども、どうなるか少しやってみないとわからない点がありますね。この辺りも含めて、検証する必要があるかなということですかね。はい。ありがとうございます。他にございませんでしょうか。坂田委員どうぞ。</p>
坂田委員	<p>今回からなのでちょっと的外れかもしれないのですが、基本的なことで教えていただければと思うのですが、このアンケートはどのように活用される目的のものかというのを教えていただければと思います。一応過去の報告書が付いているので、見させていただいたのですが、これが例えば過去の報告書の結果はどのような活用の仕方をしたのかというのを参考に教えていただければ今回のアンケートについても理解できるのかなと思いましたので、教えていただければと思います。</p>
佐藤会長	<p>はい、大変重要なお指摘かと思っております。事務局からリプライいただけますようお願いいたします。</p>
事務局	<p>こちらのアンケートは定住促進施策の効果検証や今後の方向性を決める検討材料とさせていただきます。合わせてですね、今の総合戦略が令和7年度で最終年度となります。国の方も新たなデジタル総合戦略という形で新しいものをすでに作っております。上尾市としても令和8年度からの新たに策定するにあたって、その基礎資料とさせていただきますとともに、前回につきましてはこの結果を市長含め庁内の部長級以下にもすべてこちらのアンケート結果を報告書として説明し、その各施策について検討するよう庁内で周知を行ったところでございます。</p>
佐藤会長	<p>坂田委員どうでしょうか。</p>
坂田委員	<p>理解としては、単年度予算に反映できるものは反映する、してもらえよう部局には周知はしたと。さらに今後作る総合計画の方の内容に反映していきたいというような理解ということでよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
佐藤会長	<p>坂田委員よろしいでしょうか。</p>
坂田委員	<p>はい。わかりました。</p>

佐藤会長	<p>大変重要なポイントで、2年前の前の定住アンケートが今回報告書として配布されているわけですが、これが出てからももちろん庁内に周知共有するにしても、その後、当時の各担当部局の既存事業がどう検証され見直されて改善されたのか、あるいは既存事業のラインナップだけでは不十分だから、新規事業として立案したものが具体的にどういう事業としてあるのか。そういったところを示していただけると今の坂田委員からのご質問に対する回答として具体的にわかりやすかったという風に思うのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>そのアンケート結果の反映についてまとめたものはございませんが、今回のアンケート結果については、今後どのように施策に反映させていくかどうかこれから検討させていただきます。</p>
佐藤会長	<p>本当は、アンケートの前にそういうデザインをしておく必要があるのですよね。問を立てる、仮説を設定するという、その検証のための設問をアンケートに加えて、アンケートによって得たデータを基に分析するという形に本当はなるのですけれども。手が挙がっていますので、樋口委員どうぞ。</p>
樋口委員	<p>転入者へのアンケートの問6で、細かいところで恐縮ですが、転入された方に住まいの地区を聞いているのですが、なかなか転入者にとってどの地区に住んでいるというのは、わかりづらい内容かなと思ひまして。というのも前回のアンケートを見ましても、同じ設問で、無回答が15件ということで、他の設問の無回答と比べても圧倒的に無回答が多い気がしましたので、これを例えば住所なりで聞いて、事務局の方で地区ごとにまとめるとか、そういった方がいいのではと思ったのですが、ご見解はいかがでしょうか。</p>
佐藤会長	<p>事務局リプライいただけますか。</p>
事務局	<p>こちらの設問については、町名など細かく書くのを回答者が避けられることを考慮しましてこのような地区で聞ければと考え、このような形にしております。</p>
佐藤会長	<p>樋口委員いかがですか。</p>
樋口委員	<p>趣旨はおそらくそうだろうと思うのですが、前回のアンケートの結果を見ますと、この辺が多いので、その設問の重要度とかその辺にも関係してくるのかなと思うのですけれども、1回こちらについてもご検討いただければと思います。以上です。</p>
佐藤会長	<p>はい。ありがとうございました。高橋委員どうぞ。</p>
高橋委員	<p>今の転入者の問6のところですが、例えば郵便番号を書いていただいたらどうかと聞いていて思いました。郵便番号7桁を入れていただくとおのずと欲しい情報があるので、当然今おっしゃったようにそんな細かいところまで書きたくないという方は書かないと思いますが、ご検討ください。それと、アンケートの回収を上げる方法ですけれども、予算を使うのでど</p>

	<p>うかと思いますが、上尾の取組の中に私も参加させてもらっている14番のあげお産業祭というのがありますね。ここ近年串餃子とか何か仕掛けて飲食店さんに色々やっている施策があるので、その飲食店さんに何か協賛のお願いをするか、市の予算を使って、初回のドリンク無料券等、何かわかりませんが、そういうようなことをやったら少し回答率が上がったんじゃないかなと思いました。当然転出の方は遠くに引っ越してしまえばそれではつれないですけども、転入の方については、これから上尾市を知ろうという意味で、魅力が増すかもしれませんので。アンケートはやっぱりクオカードなんかじゃないですけどやると抜群に回収率が上がりますので、市の予算の範囲内で結構ですし、今回もう間に合わないのであれば2年後でもいいと思うのですが、ご検討いただければと思います。</p>
佐藤会長	<p>はい、ありがとうございます。高橋委員から2つご提案いただきましたけれども、事務局いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>郵便番号で回答していただくというご意見については、検討させていただきます。串餃子などの飲食店を活用したもののご意見については、次回アンケートの実施の際に検討させていただきます。</p>
佐藤会長	<p>高橋委員よろしいでしょうか。</p>
高橋委員	<p>はい、ご回答ありがとうございます。</p>
佐藤会長	<p>はい、他いかがでしょうか。小池委員どうぞ。</p>
小池委員	<p>転出者向けアンケートの方で質問させていただきたいのですが、前回やった転出アンケートってさっきどういう風に活用されるのかのお話がありましたが、そもそも定住促進策で転出アンケートをやるのはどういう意図でやるのでしょうか。</p>
佐藤会長	<p>事務局リプライいただけますか。</p>
事務局	<p>転出者に対するアンケートですが、いわゆる定住促進は転入を進めるといふことと、転出を抑制するという2つの側面を持っていると思います。今回転出を抑制するために実際転出した方はどういう理由で転出したか、上尾市にまだいられる要件はあったかどうかを検証するために転出者にもアンケートを行っております。</p>
小池委員	<p>何回かやっていると思いますが、基本転出される方は、外部的な要因で例えば転勤になったみたいの方と、あとはどうしてもその生活している地域の利便性が悪いからという大きく2つあるかなと思うのですが、過去の傾向からしてどちらの方が多かったというのはわかりますか。</p>
佐藤会長	<p>いかがですか。</p>
事務局	<p>前回で申し上げますと、いわゆる仕事の都合が多数でございました。</p>
小池委員	<p>はい、ありがとうございます。</p>

事務局	<p>そうしたら、今回の転出アンケートというのは、その傾向が変わっている可能性があると思って、やっているという認識でいいのですかね。</p> <p>いわゆるコロナのテレワーク等も経ておりますので、変わっているかもしれないと見ております。</p>
小池委員	<p>わかりました。正直、転出ってどうしようもない事情というのがあると思っていて、そこに対して、何かしらに施策をとるとするのは結構厳しいと思うのですよ。多分転出アンケートで大事なのは、どちらかというところ私が言った後者のほうで、そもそも住んでいる周りの生活の利便性で出て行ってしまった人がどれだけいて、その人がどういう反応をするかを転出アンケートで見なきゃいけないと思っています。その時に今後アンケートの使い方としてご検討いただきたいのが、地域特性がだいぶ出るとあって、例えば平方地区の人と上尾地区の人ってそもそも生活環境が全く違ったりするので、感じ方が違うと思うのですよ。なので、基本的に問6の地区別で、アンケート回答された方が、どのように考えて出ていったのかわかるように最後までまとめていただくのを意識していただくと有効なデータが取れると思います。意見とさせていただきます。</p>
佐藤会長	<p>はい、ありがとうございます。事務局から今の点について何かありますか。</p>
事務局	<p>今のご意見を踏まえて、報告書のまとめ方も検討したいと思います。</p>
佐藤会長	<p>小池委員がおっしゃったことに関連することなのですが、分析するときには転入アンケートも転出アンケートもそれぞれの理由と属性ですね。具体的に言うと問1から問7あたりまで年齢層もそうですし、その家族形態もそうですし、居住地区、居住形態などの属性でクロス集計を取って、その各属性と転入転出理由との間に関連性があるかどうかを統計的に有意差があるかどうかを分析することをぜひやってみられたらどうでしょうかということですね。本来、定住促進施策の効果検証ということなので、そもそもその上尾市として、定住促進を目的とした個々の事業、様々な事業があると思うのですね。ここの事業群といいますか事業のラインナップがあるはずですね。それによって、例えば転出抑制に寄与できたかどうか、あるいは転入のきっかけになったか、前者に関しては、実際に転出の場合は、外部要因の影響がかなり効いてくるのですけれども、そもそも転出してしまった人、転出者は上尾市が行っている定住促進施策を目的とする事業あるいはそういったサービスの受益者であったかどうかというのも、本当は聞いておいた方がいいし、転入に関しても上尾市を選んでいただいたのは、市の様々な転入促進の事業を知って、上尾市を選んだかどうかというところをアンケートで確認できるようにしておかないと事業の検証や改善になかなか繋がらないのではないかと。その観点で見ると、アンケートの問15に事業の取組を知っていますかというのがあるのですが、これはこれでいいかもしれないですけども、そもそも転入者に対するアンケートであれば、行っている転入促進の事業を知っていたかどうか。それは例えば広報とか様々な事業をやっているわけですよね。転出に関しても同じようなことで定住促進施策、定住促進の事業をご存じであったかどうか。そういったサービスを利用されたのかどうかとか、そこがやはりもう1つ聞いてお</p>

	<p>く必要があるのではないかと思いますのですけれどもいかがでしょうか。もちろんアンケートの結果を庁内に周知されるのは大事なことですけれどもなかなかそこから各課が報告書の内容を読み取って担当されている事業をマイナーチェンジしたり、フルモデルチェンジしたりするっていうことはなかなか難しいかもしれないと思うので、そこをもう少しアンケートで見られるように、そういった知見が得られるような設計にしておくとうよろしいのではないかとということですが、事務局いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>今の問いで、例えば転入で言うと転入後の上尾市の取組で知っているものはありますかということで、ここについて転入者が上尾市のことを調べて知っていたか、あとは実際経験しているかどうかというのは確かにこちらでは把握できていないのですが、この問 15 の意図としては上尾市の施策に関心があるかを踏まえた説明の仕方としております。</p>
佐藤会長	<p>例えば、どれでも構わないのですが、14 個の取組が上がっているのですが、アッピー元気体操いうのがあります、アッピー元気体操があるがゆえに転入されたのか、上尾市が選ばれたのかっていうのは、そういう趣旨なのですか。アッピー元気体操というのは定住促進のための事業ですか。違うような気もするのですが。効果検証をやろうというのであれば、その検証できるようなアンケート設計にする必要があるのではないかと、もちろんこの問 15 に書いてあるように知っているか知らないかというのは、それはそれでまた別の意味があると思うのですが、いかがかなということなのですが。今すぐにお答えいただけなくても構わないので、またご検討いただければという風に考えております。せっかくこういう形でアンケートを2年に1回やるようになっていきますので、改善に結びつけられるようにしたらよろしいかと思います。</p> <p>はい。井上委員手が挙がっていますね。お願いいたします。</p>
井上委員	<p>今のお話に関連してなのですが、取組を知っているものはあるかどうかというよりはむしろどの取組をきっかけに選んだかということなので、問 11 の中に何かその他のところで具体的に例えば子育て世代だと小学生の学童保育所が全員は入れる等具体的にそういうこれがあるからということを書いてもらった方が、より分かりやすいのかと思いました。知っているかどうか必要だけでも具体的なものを書いてもらうほうが、今後の施策等に繋がりやすいのかと思いましたので意見だけです。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございます。他の委員の皆さんいかがですか。よろしいですかね。それでは、定住アンケートにつきましては、これぐらいにさせていただきます。議題の(2)その他に移ります。事務局から何かございますか。</p>
事務局	<p>はい。次回の審議会の予定についてご説明させていただきます。次回の審議会は令和7年度早々に今回の定住アンケートの結果と結果を踏まえた次期総合戦略の構成などのお話をさせていただければと考えております。以上です。</p>
佐藤会長	<p>はい。この点につきまして、委員の皆さんから何かございますか。よろしいですか。高橋委員と小池委員、高橋委員が先に挙がっていたのでお願</p>

	<p>いたします。</p>
高橋委員	<p>来年度早々ということは、例えば4月とか5月とか、時間的にはまた2時でWebなのかなと思いますが、予定が決まっているのであれば私はすぐにスケジュールを入りたいので、その辺はいかがでしょうか。またそのご連絡はいつぐらいにいただけるのでしょうか。</p>
佐藤会長	<p>はい。どうでしょう。</p>
事務局	<p>まだ4月か5月か具体的には決められていないので、決まり次第、なるべく早くご連絡させていただければと思います。</p>
高橋委員	<p>すみません。決まるのはいつぐらいでしょうか。</p>
事務局	<p>2月頃に決める予定です。</p>
高橋委員	<p>はい。ありがとうございます。連絡お待ちしております。</p>
佐藤会長	<p>はい。小池委員いかがでしょうか。</p>
小池委員	<p>はい、すみません。今回、アンケートで色々ご意見が出て、割と改善できる内容がありそうだったと思うのですが、これ發送自体が12月中旬じゃないですか。最終的にどういう風になったというのは、共有がそもそもあるのですか。</p>
事務局	<p>今回、色々ご意見をいただいたので、まず佐藤会長の方にご相談させていただいて、そのあと皆さまにメールでお送りさせていただこうと思います。会長よろしいでしょうか。</p>
佐藤会長	<p>私にボールがありましたけれども、はい。またご相談ください。</p>
小池委員	<p>会長のご負担をかけてしまって大変恐縮ですけれども。 ちなみに、大体いつ頃になるのでしょうか。それこそ12月中旬で時間全然ないですけど、それこそ發送の直前とかに回ってきててもどうしようもなかったりすると思うのですが、スケジュール感みたいなものが。</p>
事務局	<p>先ほどの説明で12月中旬ということで、確かに日がないという状況でございます。これから急ぎもう1回再構成しまして、佐藤会長にはお手数おかけしますが、もう1回諮った後に委員の皆様にご送らせていただきます。その期間が短いとなると、今回審議した意味もございませんので、場合によってはこの發送時期が多少遅れることも想定はしております。以上でございます。</p>
小池委員	<p>わかりました。ありがとうございます。</p>
佐藤会長	<p>他にはございませんか。その他に関しまして。私から、前回のこの1回目の審議会の最後のときにも、今後の総合計画の策定との一体的に総合計画と総合戦略の改定をなされるということで基本構想の方はすでに改定さ</p>

	<p>れているのですよね。それに基づいて前期から後期の基本計画へ改定されると思うのですが、同様にして総合戦略の方も同時期に改定になるので、本格的には来年度令和7年度の改定だと思うのですが、総合計画の審議会をまた設置するかしないかよくわかりませんが、要するに総合計画のその審議検討、審議会だけじゃなくて庁内の検討もあるかと思うのですけれども、そここの本審議会との審議検討がどういう風な形で進められていくかというところが審議会の会長として気になっているので、前回の8月の時のお答えでは、まだちょっと見えていませんというようなスケジュール的なものがいつ頃見えるのかはお聞きしたいのですけれどもいかがですか。</p>
事務局	<p>総合計画の方については、次回の審議会を1月末から2月上旬で考えております。それを踏まえてこの総合戦略の審議会につなげていきたいと思っていますので、そういった意味も踏まえて先ほど次回の審議会の決定が2月頃と申し上げたのは、それも関係してございます。基本的に総合計画と総合戦略は強くリンクするものだと思っておりますので、その関連性で進めていけたらと思っております。</p>
佐藤会長	<p>来年度の1回目の審議会の議題というのは、総合計画でここまで固まっていますと、後期基本計画の骨子案みたいなものが出てくるのでしょうかね。それを踏まえて総合戦略でどう書くか、どこをどういう風に改定するか、あるいは今回のそのアンケート結果を踏まえてというような、そういった議論になってくるのですかね。</p>
事務局	<p>そのような方向で予定しております。</p>
佐藤会長	<p>はい。承知しました。ありがとうございました。他にその他について、皆さんからなければその他については終わりにしたいと思います。 それでは、以上をもちまして議事は終わりましたので進行の方を事務局にお返しいたします。</p>
司会 (堀部次長)	<p>はい。皆様長い時間そして大変貴重なご意見ありがとうございました。先ほど事務局からご説明させていただきましたけれども、ご意見を踏まえて時間も十分とった上で、修正案を皆さまにご提示したいと思いますので、よろしく願いいたします。 それでは、最後に本田副会長から閉会のごあいさつをお願いいたします。よろしく願いします。</p>
本田副会長	<p>【閉会あいさつ】</p>